

令和6年度 学校関係者評価結果報告書

令和7年3月

評価対象期間:

自令和6年4月1日

至令和7年3月31日

公益財団法人

鯉淵学園

鯉淵学園農業栄養専門学校

学校関係者評価委員会

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の趣旨

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の目的と基本方針は「学校関係者評価委員会規程」第 1 条に定める通り「鯉淵学園農業栄養専門学校（以下「学園」という。）が実施する自己評価結果の客観性・透明性を高め、学園と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。」ことである。

2. 学校関係者評価委員会の審議事項

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の審議事項は同じく「学校関係者評価委員会規程」第 2 条に定める通り

(1) 自己評価委員会によって定められた自己評価の基本方針、実施体制、実施方法及び評価項目

(2) 自己評価結果に基づく改善策の提案事項

(3) 学校関係者評価報告書の作成及び公表方法

(4) その他審議が必要とされる事項

3. 基本方針

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価は文部科学省生涯学習政策局『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

4. 委員会運営

学校関係者評価委員会を以下のように年 2 回開催する。

①第 1 回目を実施する委員会は、前年度の委員会運用実績および報告に対しての改善計画を学校から報告する。

②第 2 回目（3 月）に実施する委員会は、当該年度実施した自己評価の概要を学校より報告し、評価・改善の提言を行う。

5. 自己評価の仕方

鯉淵学園農業栄養専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和元年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、11 分類 66 項目である。『鯉淵学園 学校評価 自己評価結果（令和6 年度）』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）を示した。また、項目ごと、職員の記載した現状および問題点と改善策を記載し、自己評価委員会の審議を経て学校関係者評価委員に提出した。

6. 自己評価の実施

期間：令和6年12月12日～12月27日

対象：パート及び役員を除く教職員（事務職員も含む）31名

回答数：27名

7. 自己評価委員会の開催

令和7年1月21日（火）

自己評価委員会名簿

平原 信男	委員長 副学園長
高田 良三	委員 アグリビジネス科学科長
大熊 哲仁	委員 食品栄養科学科長
秋葉 勝矢	委員 農業技術センター長
山本 春花	委員 管理部学務課

II 学校関係者評価委員 名簿

氏名	所 属	適 応
** ** *	笠間市立**中学校長	中学校及び高等学校の 校長または進路指導担 当者
** ** *	***地区区長会長	地域住民
*****	公益社団法人 元会長	専門分野における業界 関係者
** ** *	*****里山農場（株）	専門分野における業界 関係者
** ** *	鯉淵学園同窓会	卒業生

※任期は令和6年4月1日より令和8年3月31日

III 学校関係者評価委員会の実施状況

令和7年 3月14日（金）

欠席委員：なし

学内関係者：長谷川量平 学園長

高田 良三 アグリビジネス科学科長

大熊 哲仁 食品栄養科学科長

秋葉 勝矢 農業技術センター長

山本 春花 学務課長

学校関係者評価委員会 進行状況

自己評価結果の解説とその評価

○教育理念・目的	3. 36
○学校運営	2. 93
○教育活動	3. 16
○学修成果	3. 20
○学生支援	3. 18
○教育環境	2. 90
○学生の募集と受入れ	3. 25
○財務	2. 88
○法令などの遵守について	3. 38
○社会貢献・地域貢献	3. 27
○学風について	3. 23

IV学校評価委員会評価結果

1. 評価の仕方

自己評価結果の評価 学校関係者評価委員は、鯉淵学園農業栄養専門学校の説明を受け、自己評価集計結果 の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、鯉淵学園農業栄養専門学校が行った自己評価結果について意見・助言を口頭及び文章で表した。

2. 評価委員からの助言及び意見内容

(1) 教育理念・目的について

- ・前回から大幅にポイントが上がっているが、どのような理由が考えられるか。
- ・体制が変わり、全体的な志気が向上している。原点回帰を掲げ、教育理念の再構築やスクールプランの作成等、教育理念に基づく共通理解が図られるようになってきた。
- ・スクールプラン上、どのような学生を育てる学校を目指しているのか。
- ・価値観教育、人格教育、専門教育を柱とし、自ら考え、判断し、主体的に行動できる学生を育てることを目標としている。

(2) 学校運営について

- ・学校 HP が充実しており、オープンキャンパスや学校見学会が計画的に実施されているのが良いと思う。
- ・入学生が減少していると思うが、現状各科の在籍数、特にアグリビジネス科について学生数の減少についてどのように検討されているのか知りたい。
- ・アグリビジネス科は新2年生が8名、新1年生が13名の予定。
食品栄養科は新2年生が21名、新1年生が25名の予定。
研修は保育園、中学校、大学等、年間延べ1,000名の対応を行っている。
各種イベントの内容の見直しを行ったり、SNS 発信を強化したりしていく。
その他、見学会等の参加を促す取り組みを実施していきたい。
- ・(1)にあった理念を実現するための管理側の意識や体制を強化することが学校運営上重要であると考え。

(3) 教育活動について

- ・学生を教育していく上で、教職員の自己研鑽は重要。学生も時代と共に変わっている。世の中の流れに応じた研修の充実化を願う。

(4) 学修成果について

- ・就職状況を知りたい。

- ・両学科共に就職希望者の就職率は100%である。
食品栄養科はほとんどが栄養士として、アグリビジネス科は雇用就農を中心として、JA就職者も輩出している。
- (5) 学生支援について
- ・外部との連携についてどの範囲で行っているのか。
 - ・幼保、小学校、中学校、地域、関連業界との連携は行っているが、より一層の充実に向けて、まずはJAへの働きかけ等を行っている。高校とは現状実施できていない。
 - ・給食は実施しないのか。学生の食生活の充実もまた学生への支援となるだろう。学園でとれた農産物を提供する場を学校で運営できるような体制を目指してほしい。そのための人員不足も否めないだろう。
 - ・人員を厚くすると人件費が必要になる。財務に係る問題が大きいのではないのか。
- (6) 教育環境について
- ・教育施設の老朽化に関してどのように考えているのか。
 - ・今年度は80周年を迎える。記念事業として学生のニーズに応えられる設備投資を行いたいと考えている。また、老朽化に関しては、使用できていない施設をそのままにせず、壊したり貸したりする等して対応していきたいと考えている。大きな資本が得られないことには難しい問題である。
- (7) 学生の受け入れ・募集について
- ・農業高校入学者も減っているため、社会人就農に対する取り組みも活発化させていく必要があるのではないのか。食品栄養科は栄養士資格取得という明確な目標・目的がある。アグリビジネス科入学生に対しても目的観をもてるような内容を検討すべき。
- (8) 財務について
- ・財務については理事会が責任をもつ必要がある。保護者としては学費が安く、仲間が多いところに通わせたいものだ。学園に入学する付加価値が必要であろう。例えば、有機農業に関する教育などはどうなのか。
 - ・アグリビジネス科では、グリーン教育事業の一環で、有機農業を全面に出した教育内容を検討している。また、慣行農法においても減農薬を心がけて教育を行っている。
- (9) 法令などの遵守について
- ・概ね問題はないが、超過勤務については意識を高めているところ。
 - ・学校に置いても月に45時間以下で取り組むようシステム管理も行っている。
 - ・農場管理において失敗できない現状がある。教育と生産のバランスは難しい。
 - ・人が足りないのは事実であるが、時代も変わり、農業も残業なしでできなくはない時を迎えている（実体験に基づき）と思う。

(10) 社会貢献・地域貢献について

- ・今年度、職業体験でお世話になったが、来年度も是非継続してお願いしたいと考えている。

(11) 学風について

- ・全寮制の時代は勉強だけでなく学園での生活が暮らしそのものだった。時代も変わり、全寮制は難しいとは思いますが、学生の暮らしの中心としての学校のあり方を考え、新しい学風について明確にした教育活動を行ってほしい。
- ・昔の学風では、できないとは思いますが、卒業生が語る学園の良さとして全寮制で培った人間関係、コミュニケーション力、社会で生きる力があるのも事実。学内でリーダーとなれなくても、社会に出てリーダーとなれる人材教育ができていた。時代に合わせつつも、そのような人材を教育する学園であり続けてほしい。

3. 総評

本委員会は、講淵学園農業栄養専門学校の自己評価の結果を受けて、学校関係者評価委員により意見を具申し、もって本学園の運営の改善、発展に寄与することを目的としています。

今年度の自己評価結果や、学校関係者評価委員会における意見、助言をもとにさらに発展していく方途を探っていただき、来年度に向けた改善策を策定していただきたいと念ずるものです。

今後、学校運営の問題解決にむけて委員会の内容を反映していただき、鯉淵学園農業栄養専門学校の教育の質を高めていくことを願います。

鯉淵学園農業栄養専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 *****